「自己肯定感」「自信」育む

南区「若久緑園」中高生8人

富士山登頂に挑戦

7月23日

南区の知的障害児入所施設「若久緑園」（中村隆園長）に暮らす中高生8人が、7月に富士山への登頂を目指し、トレーニングを積んでいる。自信を付けて表情が明るくなるなど子どもたちに変化も見られるといい、施設は挑戦を後押しするため、インターネット上の「クラウドファンディング」を通じて寄付を呼びかけている。【青木絵美】

ネット上で寄付呼びかけ

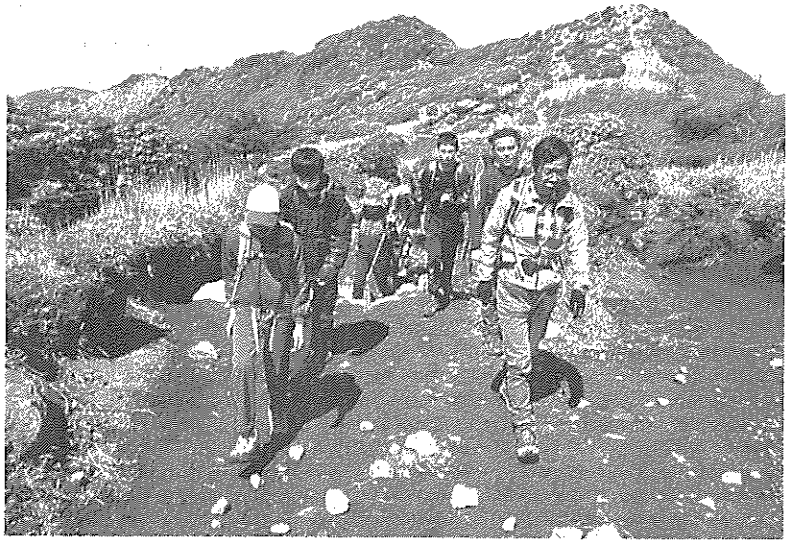
若久緑園は幼児から18歳まで68人の知的障害のある子どもを受け入れている。約7割が家庭で虐待を受けてきたといい、中村園長は「子どもたちの自己肯定感を高めるため、生活の中で、自信を持てる経験や場面を作ることが大切」と話す。

富士登山は5年前、当時入所していた中高生8人が初挑戦して成功しており、2度目の今回は中1～高3の計8人が参加する。

昨秋から県内の宝満山、大分県の由布岳、久住山などでトレーニングを重ね、中3の男子(14)は「歩くことが楽しい。最後まで登り切りたい」と明るい表情。高1の女子(15)も、富士山に向け「日本で一番の山。頂上で自由に叫びたい」と夢を思い描く。

挑戦は7月23日。前日に飛行機で現地入りし、23日朝、5合目から施設職員やガイドらと共に頂上を目指す。

費用負担が難しい子どもたちの家庭事情を踏まえ、現地への往復交通費を「クラウドファンディング」で募る。目標額は120万円で、7月末日締め切り。サイト（https://readyfor.jp/projects/midorien/）。前日の挑戦の様子や子どもの現状を伝える研修会は6月27日午後6時半～8時半、中央区渡辺通3のふくふくプラザで開く。資料代500円。若久園092・551・4001。



4月のトレーニングで、サポート役の大人と一緒に久住山を